

TAMABI NEWS

Tama Art University News Magazine

vol.90



留学で創る未来

Develop creativity abroad



留学

アートとデザインを学ぶ上で、「留学」は可能性を広げる選択肢のひとつ。海外で多様な文化、価値観に触れることで、自分の表現の幅も大きく広がる……とはわかっているけど、「なんとなく大変そう」「今はそれどころじゃない」と、なかなか現実的には考えられなかったりするもの。でも、せっかく充実している多摩美の留学制度や留学サポートを活用しないのはもったいない。実際に留学を体験した人たちの声や、身近な相談窓口・国際交流センターなどに触れれば、留学がもっとリアルな選択肢になるはず。

自分にも できますか？



Q 留学って、あまりピンとこないのですが…？

A 将来の夢を実現するために、日本国内では探せない学びの機会を見つけられるのが留学の意義だと思っています。私の場合、ファッション誌のエディターになるために、ニューヨークの芸術系大学で専門のプログラムを受講しています。もちろん留学意義は大学の授業だけではありません。海外に行くと「本気で心を動かされる瞬間」に出会うことができます。これは自分の表現の幅を広げるために不可欠な経験だと思います。また、海外に出ることで、逆に日本の魅力を再確認することもできるんです。夢を実現するために自分に足りないものを考えて、それが海外で手に入るなら、迷わず留学という選択肢を選んでください。必ず得るものがたくさんあるはずです！ 芸術学科4年 加藤理子 さん

Q 留学の手続きって、大変そうじゃないですか？

A 留学を実現するためには、成績証明書や語学テストのスコアに加え、教員の推薦書、ポートフォリオなどの提出が求められます。さらに出願後は、学生ビザの申請などもあります。これらをすべてひとりで……と思うと気が遠くなりますが、国際交流センターで相談しながら、着実にステップを踏んでいけば、必ずクリアできます。留学が気になるなら、早めに国際交流センターへ！



22年日本画卒業 三井悠華 さん

● 学生たちのいきいきとした留学体験は >>>> **P4-5**

● 三井さんが留学を決めるまでのステップは >>>> **P8**

Develop creativity **abroad**



Q 留学はちょっとハードルが高い気がします

A 留学に興味があるけれど、心配事や不安があって諦めてしまっているという人も多いと思います。そんな学生の皆さんは、まずは気軽に国際交流センターへ相談しに来てください。一人ひとりに合った留学先や留学プログラムと一緒に考えるところから、利用できる奨学金制度の紹介、語学力の向上まで学生の目線に立ってサポートします。職員が英語・中国語・韓国語を教えるコーチングでは基礎から語学を学ぶことも可能です。また、留学先の国や留学の目的がはっきりしていなくてもOK。「なぜ留学に行きたいのか」というところから掘り下げていきましょう。国際交流センターはオープンな雰囲気です、誰でも出入りできます。ぜひこの環境を活用してください。 国際交流センター 摩庭啓人さん

● 国際交流センターがどんな場所なのかは >>>> **P6-7**

Q 英語に自信がないんですけど、大丈夫ですか？

A 多摩美なら目的や語学力に応じて英語のカリキュラムが選択できるので、授業で着実に力をつけていくこともできると思います。私の場合は、もう少し自分に合ったやり方で英語を学びたくて、国際交流センターでコーチングを受けています。職員さんに自分の希望に応じた学習プランを立ててもらったり、指導してもらったりしているので、ひとりで勉強に向き合うことができています。



油画2年 鍋島柚葉さん

● 多摩美で英語力を磨く方法は >>>> **P9**

何を目指して飛び出すのか？ 私が海外で挑戦する理由



ファッションの広報を専門的に 学ぶために単身ニューヨークへ

ニューヨークのプラット・インスティテュートという芸術系大学に留学しています。私の場合は、大学3年次終了後、1年間休学をして、私費留学をする道を選びました。

現在、受講しているのは、「ファッション・ニューメディア」というサーティフィケート・プログラムです。これは、ファッションブランドやクリエイティブな組織をどうやってブランディングし、アウトプットしていくか……などをテーマに、幅広い科目を履修できる課程で、修了すると認定証がもらえます。私はもともとファッションが好きで、雑誌のエディターになるという夢があったので、これを実現するために自分に足りないものは何かと考え、今回のプログラムを選びました。

履修する科目群は、まさに将来に直結するものばかりです。授業では、Adobe系

エディターになる夢を実現させるために ニューヨークでしかできない体験をする。

PROFILE 加藤理子さん KATO Riko 芸術学科4年(休学中)

のグラフィックソフトを使った雑誌づくり、撮影テクニック、ブランドコンテンツづくりなどのほか、デジタルマーケティングやコンシューマーリサーチ（消費者調査）なども学ぶことができます。デザインやファッションだけでなく、ビジネス寄りの科目が多いのがこのプログラムの魅力だと思います。

受講生は留学生も多く、アメリカ、カナダ、フランス、イタリア、コロンビア、タイ、中国、韓国など世界中からやってきたファッション好きと交流ができます。ファーストキャリアを積んだ後、転職やキャリアアップのために通っている社会人や学生も多く、その意識の高さから刺激を受ける日々です。

心が動かされる瞬間は ニューヨークでしか味わえない

私にとって、ニューヨークという街は、高校時代から特別な場所でした。高校2年次に家族とニューヨークを訪れた際、メトロポリタン美術館で、「CAMP」というファッション系の企画展を見て、衝撃を受けたんです。そのスケールや世界観は、日本では味わったことのないものでした。ここに行けば心を動かされる瞬間がある、ニューヨークに行けば夢や目標に近づ

ける——心のどこかでそんな思いを持つようになっていました。

今回、ニューヨークに来てすぐの2022年2月に、ブルックリン美術館で、クリスチャン・ディオールの展示を見て、「やっぱりこれだ！」と確信しました。この心を動かされる体験は、ニューヨークでしか味わえないものだと思っています。

ニューヨーク留学中にこうした世界観をよりダイレクトに感じるために、「ニューヨークファッションウィーク2022」のアジアファッションコレクションのお手伝いも経験しました。

PRのボランティアスタッフとして、バックヤードに入り、コロナ禍で来場できなくなったデザイナーさんの代わりにフィッティングなどを行いました。キラキラしたファッション業界の裏側で、地道な仕事を学びながら、ショーに関わる多くの人のパッションに触れられたのは貴重な経験になりました。

将来の目標は、ファッションエディターになって、社会とファッションをつなぐ仕事です。雑誌だけでなく、Webからの発信にも興味があります。そのためにも留学中にファッションに関するさまざまなコンテンツに触れ、ニューヨークで学んだことを将来の仕事で存分に活かしたいと思っています。



- 1 写真のクラスの課題で撮影したニューヨークの街角
- 2 「ディオールの展示は、プロジェクションマッピングなどを用いたアート性の高いもので、ドキドキが止まりませんでした」
- 3 ニューヨークファッションウィークでアシスタントを務めた際の1枚。「地味だけど思い出深い写真です」
- 4 「きらびやかなニューヨークの中でオールドスクールな魅力を保っているGreenwich Villageは、個人的に一番好きなエリア」

さまざまなアートに触れるために ヨーロッパ中をくまなく巡りたい。

PROFILE 倉本大豪 さん KURAMOTO Daigo 22年大学院グラフィックデザイン修了



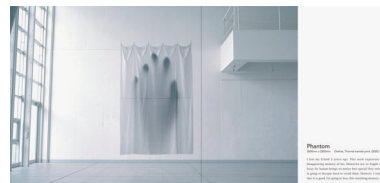
ヨーロッパで自分の作品が どう評価されるか楽しみです！

2022年8月からノルウェーのオスロ国立芸術大学の大学院に留学します。専攻は、グラフィックデザインです。もともと多摩美のグラフィックデザイン学科を卒業後、ロンドンの大学院への交換留学を検討して

いたのですが、コロナ禍で断念することに……。そのまま多摩美の大学院に進学して、自分の表現を磨きながら、再び留学するチャンスを模索していました。

今回、オスロ国立芸術大学を留学先に選んだ理由は、学費が無料だったことも一つの大きな要因です。留学＝高いというイメージの人が多いと思いますが、実はヨーロッパには学費無料の大学が多数あります。さらに、国際交流センターのアドバイスを受け、返済不要の民間の給付型奨学金を受けることもでき、生活費の負担が少ない状態で留学できそうです。

オスロ国立芸術大学の大学院には、グラフィックデザインを専門的に学べる専攻の他に、他の学科の授業も受けることができますので自分が目指す表現に近い分野を自ら選んで学べる点にも期待しています。現地では、とにかくアクティブに動くつもりで

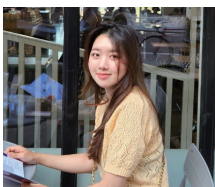


倉本さんのポートフォリオより『Phantom』(2020)。「他のアート領域と融合しながら、さらに作品表現の幅を広げたいです」

す。大学のあるノルウェーだけでなく、ヨーロッパをくまなく回って、さまざまなアートに触れ、あらゆるものを吸収したいと考えています。

自分の作品がヨーロッパでどう評価されるかということも今から楽しみです。留学によってさらに表現の幅を広げたいですね。ヨーロッパの生活が自分に合っていれば、大学院修了後に現地です仕事することも視野に入れています。留学によって、多様な文化、価値観に触れ、将来の選択肢をできる限り広げたいと思っています。

自分の判断の軸を進化させるために 世界を知り、異文化を学ぶ。



PROFILE

パク・ボラン さん
PARK Boran
プロダクトデザイン4年

韓国の高校を卒業し、日本でプロダクトデザインを学ぶため多摩美術大学に正規留学しています。現在は、さらに多様なバックグラウンドを持つ人々と出会うため、オランダのヘリット・リットフェルト・アカデミーに6か月間の留学中です。

留学を決めたとき、実はあまり不安はありませんでした。というのも、幼少期から周囲に留学経験者が多く、大変さを補って余りある学びがあると言われて育ったからです。その言葉を信じていましたし、何より新しい環境で新しい考えを学ぶ未来を描くことが大きなモチベーションになりました。

日本のプロダクトデザインは、子どもやお年寄りなど弱い立場の人を考慮したものが主流です。オランダにはまた異なったデザイン手法があり、それぞれ深い文化理解を含めて学んでいます。以前は、デザインの最適解を出すのが難しいと感じていました。しかし、新しい考えを知ることで、アイデアを比較し、自分なりに判断して作品に落とし込む力がついたと感じます。現在は、移民が多いオランダで、さらに多様な文化を吸収しています。多くの困難を乗り越えるなかで自信もつきました。留学とは、世界を「知る」ことです。失敗を恐れずに挑戦してください。



構想からセット、音楽まですべて学生たちが製作するパフォーマンス授業

海外の文化から刺激を受けるために さまざまな学生と出会い、交流する。



PROFILE

宮本晴 さん
MIYAMOTO Haru
22年統合デザイン卒業

大学2年生だった2019年夏に、「Pacific Rim」に参加しました。これは、多摩美術大学とアメリカの美術大学アートセンター・カレッジ・オブ・デザインの国際協働教育プロジェクトで、両校の学生が少人数のチームを組んで、テーマに合わせた作品を完成させるものです。私が所属する統合デザイン学科がある上野毛キャンパスからこのプロジェクトに参加する学生は少なく、最初は心配もありました。それでも思い切って踏み出したことで、海外のカルチャーに直に触れる貴重な経験ができました。

プログラムは約5か月間で、9～12月の現地留学に向け、7～8月は八王子キャンパスで定期的に英語研修などを行います。上野毛の学生にとっては、普段あまり交流のない学科の学生と出会い、情報交換できるのもPacific Rimの魅力かもしれません。

現地では、多摩美生と現地学生のチームで、作品づくりに挑戦しました。テーマは「ストリートフード」。私たちは日本のたこ焼きを商品として、店舗やパッケージのデザインを考えました。モックアップ作成からモデリング、プレゼンテーションまで英語で行い、アメリカで学ぶ同世代の学生のスキルや考え方からも大いに刺激を受けることができました。



宮本さんのチームが考えたストリートフードブランド「TAKOMAN」の店舗デザイン。

学内でちょっとした 留学体験をしてみよう

国際交流センターは、月曜～土曜日の
9:00～17:30の間、開室しています。
なかなか利用する機会も少ないかもしれな
けれど、留学に限らずさまざまな相談にのっ
てくれるこの場所をセンター職員がご案内。



国際交流センターは八王子キャンパス本部棟2階にあります。上野毛キャンパスの学生もちろん利用可能で、オンラインでも随時対応しています。

誰でもウェルカム！
スマホの充電だけでも
OKです！

国際交流センター
摩庭啓人さん



奥の部屋ではホワイトボードを使用しての留学相談や英・中・韓の語学コーチングを実施。いずれも職員が1対1で親身に対応します。センター主催で国際交流パーティを実施し、センター職員が間を取り持ち、日本人学生と留学生との交流会を実施したりすることも。異文化に触れながらフランクにつながれる空間です。

留学生と交流したり
語学を学んだり

センターの職員は「なんとなく留学に興味がある」という学生に対し、なぜ海外で学びたいと思うのか、志望理由から一緒に考えます。また、留学用ビザの取得・更新といった事務的な相談に加え、授業料や留学関連の奨学金の紹介、語学学習の支援などを学生目線でサポート。また、ときには留学や語学に限らず学生生活の困りごとの相談にのることもあるんです。

わからない「から相談可？」

「何を相談していいか



留学や語学についての

情報をチェック



入口すぐの掲示では語学検定の検定料補助制度、学内外の国際交流イベント、留学説明会などの情報を掲載。受付横の棚には語学修得用の教材や『TIMES』などの英語雑誌が並び、貸出しを行っています。さらに学内の留学経験者による留学体験記とポートフォリオは誰でも閲覧可能で、ここでは紹介しきれない、よりリアルな情報に触れることができます。

センター長からひとこと



PROFILE

国際交流センター長
メディア芸術コース

久保田晃弘 教授

見えなかったものを体験する

留学の意義のひとつは、マイノリティを体験することだと思います。慣れ親しんだものに囲まれた、日常生活では見えなかったさまざまなものが、海外という別の場所を通じて、新たな意味と共に立ち上がってきます。それは、自身の創作活動やこれからの進路に対しても、大きな問いかけになるに違いありません。各学科の国際交流センター運営委員の先生が相談ののてくれますし、留学に行こうかどうか迷ったら、ぜひ挑戦を！

各学科の

国際交流センター運営委員

日本画 八木幾朗 教授/油画 村瀬恭子 教授/版画 佐竹邦子 教授/彫刻 笠原恵実子 教授/工芸 池本一三 教授/グラフィック 佐賀一郎 准教授/プロダクト 濱田芳治 教授/テキスタイル 辛島綾 准教授/環境 橋本潤 准教授/情報 港千尋 教授/芸術学 大島徹也 教授/統合 菅俊一 准教授/演劇舞踊 加藤梨花 講師/リベラルアーツセンター 佐藤達郎 教授/大学院 木下京子 教授

「多摩美生のサードプレイス」に

国際交流センターでは、留学・語学関係の相談に対して手厚くサポートしていて、学生一人ひとりの性質や考え、語学レベルに合わせた丁寧な対応を心がけています。一方で、留学や語学学習に興味のない学生もふらっと立ち寄り、「ちょっと

聞いてほしい」と授業や学生生活のことを気軽に話せるような場所にしたいとも思っています。目指すのは、家でも教室でもない「多摩美生のサードプレイス」。オープンな空気でお迎えしていますので、ぜひ、一度のぞいてみてください。

利用者

1年次から利用していて
職員さんとも仲よしに。
国際交流の選択肢が
広がる場所です！



メディア芸術2年
中村佳也乃 さん

職員の中村さんと、利用者の中村さん。どのような会話が繰り広げられているのか、ちょっとのぞき見してみました。

CROSS × TALK

人生相談もできる!! センターの日常

- 摩庭** いつもどんな話してるっけ？
中村 私、摩庭さんとはそんなに話してないような…… (笑)。
摩庭 普段は別の職員さんとよく話してるもんね。でもせっかくなんだから、なんでも聞いてよ！
中村 あの、観光ビザ取りたいんですね。韓国に行きたくて、飛行機を調べてるんですけど、ビザ取るところも混んでるみたいで。あと、パスポートも切れてるから更新しなきゃ。
摩庭 成人したら、紺 (5年) か赤 (10年) か選べるね。
中村 えっ、選べるんですか？ 私、5年がいいな。
摩庭 10年のほうがラクじゃない？
中村 いや、写真を更新したい……。
摩庭 なるほどね (笑)。そういえば、授業は順調？ ちゃんと出てる？
中村 授業は……ほとんど出ますよ。共通教育科目は1年で取り切ってて、学科の選択必修と英語を取れば卒業できますよって言われた。でも、授業を取りすぎて2単位あきらめちゃって。それでGPAが下がったことがショックだったんで、今はがんばってます。
摩庭 よかった～、心配してたんだよ。じゃあ、成績は上がってるだろうね。そうすると、来年のPacific Rimにも挑戦できるんじゃない？
中村 でも、英語力が必要ですね？
摩庭 英語の面接があるからね。これくらいの会話は英語でできるのが望ましい。



- 中村** ……今回はちょっと見送ろうかな (笑)。
摩庭 おい (笑)、あと1年あるんだからがんばろうよ！
中村 がんばろうと思ってた時期はあるんですよ！結局、やらなかったけど……。でも私、留学に興味ある友達をここに連れてきたりしてるし、めっちゃいい学生だと思いませんか？
摩庭 この前もひとり連れてきてくれたよね。あの子、最近来てないけど、「また興味が出たらおいで」って言うておいてよ。でも、どうすれば国際交流センターにもっと学生を呼び込めるんだろう？
中村 協力してくれる学生を探して、その学生に広報してもらおうとか？
摩庭 センターの学生大使か！ それいいね！
中村 入り口を華やかにするとかよりも、学生が呼び込んだほうが絶対に人が来ると思う。
摩庭 なるほど、その案いただき！

留学実現までの5STEP

留学を実現するためにはどのような準備が必要なのか。
大学院留学を決めた先輩が語る、在学中に取り組んでおくべきステップ。



国立台湾芸術大学
大学院 合格
22年日本画卒業

三井悠華さん

留学のきっかけ

高校時代から水墨画に興味があり、いつかは本場で学びたいと思っていました。そこで国立台湾芸術大学の大学院で専門的に学ぶ道を選びました。

STEP 1

テーマを見つける

海外のどこで、何を学びたいのか 自分のイメージを整理する

私の場合、大学1年次から「本場で水墨画の真髄を学びたい」という目的が明確にありました。留学先の国立台湾芸術大学のことは高校時代から知っていて、多摩美術大学に進学した理由もここが交換留学の提携先だったからです。

STEP 2

情報収集

国際交流センターに通って 自分の留学に必要なものを調べる

もともと在学中の交換留学を目指していたこともあり、留学の申請には何が必要なのか知るため、国際交流センターで情報収集をしました。ここで成績や語学力に加え、ポートフォリオが必要なことを知りました。

STEP 3

語学の習得

留学には一定の語学力が不可欠 必要なスコアを目指して勉強！

海外の大学に留学するためには、留学先に合わせた一定の語学力が必要になります。中国圏への留学には、中国語の語学力が必須です。私は大学3年次までに中国語検定HSK4級を取得し、その後も定期的にHSKを受検しました。

STEP 4

ポートフォリオ作成

指定されたフォーマットで 在学中の作品をアピール

多くの美術系大学の出願には、規定のポートフォリオ提出が必要になります。私の場合、大学4年次の卒業制作を完成し発表をした後、2月から一気にポートフォリオを作成して、3月に台湾の大学に国際便で郵送しました。

STEP 5

必要書類の提出

成績証明書、推薦書、研究計画書、 語学テストのスコア提出も

大学の出願にあたっては、ポートフォリオ以外にも成績証明書、大学教員からの推薦書、語学テストのスコア、研究計画書などの提出が必要です。書類審査通過後、面接を受け、合格ならビザ取得という流れになります。

POINT

国際交流パーティに参加しよう！

大学1年次に国際交流センターが主催する「国際交流パーティ」に参加したことも情報収集で役立ちました。ここで多摩美で学ぶ台湾人学生の友達ができ、中国語で書類作成をする際にアドバイスしてもらうこともありました。



POINT

語学サポートを活用しよう！

私は個人でオンライン中国語の授業を学んでいました。国際交流センターで、英語以外にも学生の習熟度に合わせた勉強法や、目標に応じて語学学習のコーチングをしてくれる場があったりと、学内のサポートを活用できるのが良かったですね。

POINT

作品が際立つように配置する

私はAdobe Illustratorを使って、ポートフォリオを作成しました。ポイントは、作品が際立つように、できるだけシンプルなレイアウトを心がけたこと。提出先に合わせて、英語や中国語の作品解説も必要になります。



COACHING

国際交流センターによる 親身なコーチング

国際交流センターが実施するコーチングでは、担当職員が学生一人ひとりの目的や語学力に合わせて学習計画を立て、語学を教えています。留学を目指す学生はもちろん、外国語を使う仕事に就きたい、外国の画集を読みたいなど目的はさまざま。週に1度や2〜3週間に1度など、各学生のペースに合わせてスケジュールを組みます。授業との違いは、基本的に1対1の指導であること。勉強の仕方がわからない学生には、まず単語を覚えるコツから指導が始まることも。もちろん、英語論文執筆など、ハイレベルな英語習得に挑戦したい学生も大歓迎。職員が熱意を持って指導してくれます。

コーチング利用者 > 油画2年 鍋島柚葉 さん



大学で個別に語学の指導を受けられる場はなかなかない



コーチングを利用し
英語の苦手意識がなくなりました。
将来は学芸員になって
英語力を発揮したいです！

英語力も多摩美で磨く

留学にはスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングと、4つの英語スキルが欠かせないもの。

自分に合った形でそれぞれの能力を伸ばすため、多摩美という環境を活用しよう。

ACADEMY

目的に応じた語学カリキュラム



荒木慎也先生によるポートフォリオライティングの授業

アートやデザインを学ぶ学生にとって、英語力は活躍の場を広げる武器。リベラルアーツセンターには目的別の幅広い英語の授業が揃っているので、将来のビジョンに合わせて履修が組めます。例えば「ポートフォリオライティング」では、ポートフォリオで使える単語や文章の型を学び、実際にポートフォリオを作成。海外に向けて発表できるレベルまで、“使える”英語力を練り上げます。

将来のビジョンに向け、4年間で計画的に
英語力を磨いてほしいと思います。
悩んだらリベラルアーツセンターの
英語相談窓口へ！

リベラルアーツセンター 高梨美穂 教授



ENJOY

チットチャットクラブで楽しくおしゃべり



留学希望者も多く、情報交換の場としても最適！

毎週月曜のランチタイムに、共通教育棟の学生ラウンジで軽食を楽しみながら英語でコミュニケーションをするサークル。多摩美の学生なら誰でも参加可能で、留学生も毎回参加しています。アットホームな雰囲気や学生を迎えてくれるのは、多摩美で英語を教えた大道文子先生。英語で話すのは恥ずかしい、という学生も気がつけば会話を交わしています。

パリの国立高等装飾美術学校への
交換留学を控えています、
ここでは英語で雑談できる
貴重な場です。

サークル参加者 > 油画3年 岩淵晴香 さん



AWARDS

油画修了生の川内理香子さんが VOCA賞を受賞

「VOCA展2022」にて、17年大学院油画修了・川内理香子さんが最高賞のVOCA賞を、14年日本画卒業・堀江栞さんがVOCA佳作賞を受賞しました。今回で29回目となる「VOCA展」は、平面美術の領域で国際的にも通用する将来性のある若い作家の支援を目的に1994年から毎年開催されているものです。お二人のほか、11年油画卒業・齋藤春佳さん、13年同卒業・村田啓さん、17年同卒業・水上愛美さん、版画・迫鉄平非常勤講師が参加するTHE COPY TRAVELERSが推薦され、3月11日～30日、上野の森美術館で展示されました。



川内理香子「Raining Forest」

油画卒業生の渡辺愛子さんが 上野の森美術館絵画大賞を受賞

「第40回上野の森美術館大賞展」で、01年油画卒業・渡辺愛子さんが上野の森美術館絵画大賞を、日本画4年・江越里南さんが優秀賞（ニッポン放送賞）を受賞したほか、12名の学生と2名の卒業生が入選を果たしています。本展は上野の森美術館が次代の美術界を担う個性豊かな作家を顕彰助成するため1983年に制定された公募展で、今回は714人から990点の応募があり、103点が入選。4月26日～5月8日に上野の森美術館で展示されました。受賞作家には同館ギャラリーにて翌年に入賞者展、絵画大賞受賞者は翌々年に個展開催の機会が設けられています。



渡辺愛子「明日の忘れ物を探す日」

大貫卓也教授が 亀倉雄策賞とJAGDA賞をダブル受賞

公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）が発刊する年鑑『Graphic Design in Japan 2022』の掲載作品選考会が行われ、グラフィックデザイン・大貫卓也教授の「HIROSHIMA APPEALS 2021」が第24回亀倉雄策賞とJAGDA賞を、同・服部一成教授の「原点 中平卓馬」「仲條 NAKAJO」がJAGDA賞を受賞しました。大貫教授の受賞作品はAR（拡張現実）を使用したポスター。スノードームに平和の象徴である白い鳩と「黒い粉」を封入したビジュアルを、AR専用アプリで観ると動き出すものです。7～8月に受賞記念展が開催されます（P.20掲載）。



大貫卓也「HIROSHIMA APPEALS 2021」ポスター



AR専用アプリ「aug!」をダウンロードし、アプリを開いてポスターにスマートフォンをかざす

JAGDA新人賞 3名とも多摩美卒業生の快挙

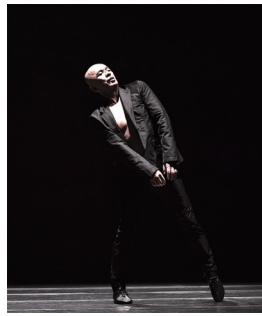
左記年鑑選考会にて発表された「JAGDA新人賞2022」に、05年グラフィックデザイン卒業・前原翔一さん、10年同卒業・竹田美織さん、08年プロダクトデザイン卒業・佐々木拓さんの3名が選ばれました。これは今後の活躍が期待される39歳以下の有望なグラフィックデザイナーに贈られるもので、3名とも本学卒業生の快挙となりました。5月31日～7月2日にクリエイションギャラリーG8にて受賞作品展が開催されたほか、6月30日～7月18日には本学TUBにて第14回企画展「JAGDA新人賞展2022@TUB」を開催しました。



左：前原翔一（「季刊誌やまびこ」ポスターを含む9作品で受賞）、右上：佐々木拓（文具メーカーのグッズ「KOKUYO MICROSCOPES」を含む12作品で受賞）、右下：竹田美織（「LENA」ラッピングツールを含む5作品で受賞）

勅使川原三郎客員教授が ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞

演劇舞踊・勅使川原三郎客員教授が、現代美術の国際展ヴェネチア・ビエンナーレのダンス部門で金獅子賞（生涯功績賞）を受賞しました。日本人の同賞受賞は初めての快挙で、鋭敏な彫刻的感性や力強い振付の感覚、動きの独自性が融合し、新たな美を創出したことなどが高く評価されました。7月に開催される同部門のオープニングで、勅使川原客員教授によるストラヴィンスキー作曲「ペトルーシュカ」が受賞記念公演として上演される予定です。



勅使川原三郎客員教授 ©Akihito Abe

野田秀樹教授の舞台「フェイクスピア」が 第29回読売演劇大賞・最優秀作品賞受賞

その年の演劇界の成果を顕彰する第29回読売演劇大賞で、演劇舞踊・野田秀樹教授が作・演出したNODA・MAP第24回公演「フェイクスピア」が、大賞・最優秀作品賞を受賞しました。フェイクニュースが蔓延し、芸術文化の不要不急が叫ばれたコロナ禍の今、「総合力を結集させて言葉の力で現実に一矢報いようとする姿勢には祈りに似た清々しさがあった」と評価。野田教授は「フェイクスピア」「THE BEE」の2作品で優秀演出家賞も受賞しています。



「フェイクスピア」写真・篠山紀信

OAC広告アワードで 学生2名がグランプリ



左：田中美羽「疲れたときの、いつもの場所」
右：村田実優「人が成長する場所」



「10th OAC学生広告クリエイティブアワード2021」全国浴場組合アワードのグラフィック部門で統合デザイン3年・村田実優さんが、同映像部門でグラフィックデザイン4年・田中美羽さんがそれぞれグランプリを受賞しました。このコンテストは公益社団法人日本広告制作協会（OAC）が主催するもので、学生のクリエイティブ力・課題解決力の向上を目的に行われています。

学生CGコンテストで 大学院生の写真作品が最優秀賞を受賞

大学院情報デザイン2年・臼井達也さんが「第27回学生CGコンテスト（Campus Genius Contest）」アート部門でPLATINUM（最優秀賞）と



臼井達也「Only on the iPhone」

BRONZE（永田康祐評価員賞）を受賞しました。またGOLD（優秀賞）を13年グラフィックデザイン卒業・石館波子さんが、SILVER（審査員賞）を19年大学院情報デザイン修了・伊嶋響さんが、メディア芸術3年・安部妃那乃さんが受賞。ほか学生・卒業生が多数受賞しています。

学生対象アートコンペの ポスターコンペで最優秀作品に

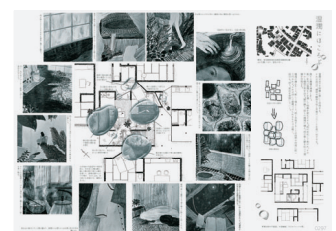
第22回学生限定立体アートコンペ「ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION (AAC) 2022」の募集告知ポスターのコンペティションで、グラフィックデザイン1年・鮎川裕之伸さんの作品が最優秀賞に選ばれ、同・神田耕匠さん、同3年・小坂優呂さんが入選しました。これはマンションの共有空間に設置する立体作品の募集告知自体を募集するもの。鮎川さんのポスターは審査員の一人で10年同卒業のデザイナー、上西祐理さんとのブラッシュアップを経て実際に掲出されました。



鮎川裕之伸「作る」

環境デザインの学生4名が ダイワハウスコンペティションで最優秀賞

大和ハウス工業株式会社主催の「第16回ダイワハウスコンペティション」で、環境デザイン4年の趙思嘉さん、青木美羽さん、伊藤さくらさん、鈴木あかりさんのグループが最優秀賞を受賞しました。



「混濁にほころぶ」

また、審査委員とは独立した形で選出される「大和ハウス工業賞」も受賞しました。受賞作品は、万物が相互に関係し合う熱帯雨林の関係性を取り込んだ家の提案です。「住宅が朽ちていく中で、周囲と溶け合う関係を築く魅力を感じる」と評価され、200万円および30万円が各賞の賞金として授与されました。

文化庁メディア芸術祭で 大学院生と卒業生が新人賞を受賞

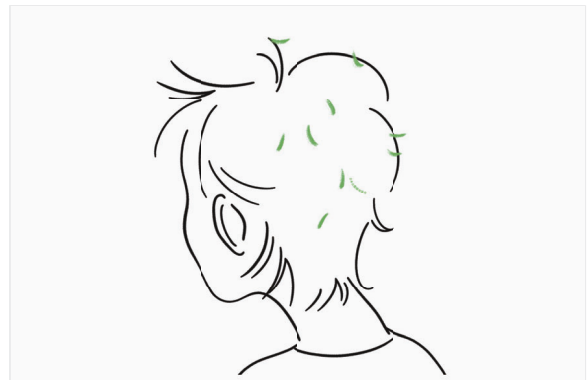
「第25回文化庁メディア芸術祭」で、大学院情報デザイン2年・花形慎さんがアート部門の新人賞を、14年メディア芸術卒業・木下麦さん（P.I.C.S. management 所属）がアニメーション部門の新人賞を受賞しました。同祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で優れた作品を顕彰し、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。花形さんはアプリを通じて「そこにいること」そのものを提供する「存在代行」サービスを実践したパフォーマンス作品で受賞。木下さんの受賞作品はテレビ東京放送のアニメーションで、4月には映画も全国公開されました。受賞作品展は9月16～26日、日本科学未来館ほかで行われる予定です。



上：花形慎「Uber Existence」メディアパフォーマンス
©2021 Shin Hanagata
下：此元和津也・木下麦「オッドタクシー」テレビアニメーション
©P.I.C.S. / ODDTAXI partners

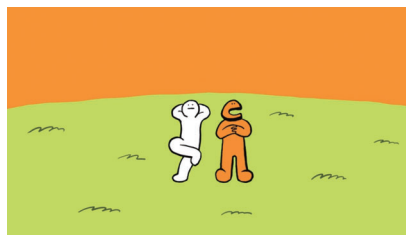
第89回毎日広告デザイン賞で 学生3名が受賞

毎日新聞社主催「第89回毎日広告デザイン賞」（後援：経済産業省）の一般公募・広告主課題の部で、統合デザイン4年・金子祐子さんが優秀賞を、同・水口広大さんが奨励賞を、川村結実さんが学生賞を受賞しました。毎日広告デザイン賞は「芸術の街頭躍進、美術と産業の融合」をスローガンに、商業美術振興運動の一事業として1931年に創設された歴史ある広告賞です。今回、一般公募・広告主課題の部には1,059点の応募があり、うち13点が入賞しました。優秀賞を受賞した金子さんは日本公園緑地協会の課題「公園の未来」に、奨励賞を受賞した水口さんと学生賞を受賞した川村さんはキックマンの「企業広告」に取り組みました。公式HP：<https://macs.mainichi.co.jp/design/>



金子祐子「公園の未来」

動画コンテストでグランプリ、学生部門賞を受賞



左：中原小百合、細谷映麻理、小林崇士「落ち込みすぎた失恋ソング『失恋すると人は何も手につかない』」
右：森山のり「お悩み相談」

広告・クリエイティブ専門誌、月刊『ブレーション』主催のオンライン動画コンテスト「BOVA (Brain Online Video Award) 2022」の一般公募部門で、16年グラフィックデザイン卒業・細谷映麻理さんが参加した作品がグランプリ、統合デザイン4年・森山みのりさんが学生部門賞を受賞しました。また同4年・ジョン・ミンギョンさんがファイナリストに選出されました。一般公募部門では協賛企業の課題に対して3分以内の動画を募集、225作品の応募がありました。

手塚治虫文化賞で2名の卒業生が新生賞と短編賞を受賞



左から：谷口菜津子「教室の片隅で青春がはじまる」（KADOKAWA）、「今夜すまやきだよ」（新潮社）
オカヤイツミ「白木蓮はきれいに散らない」（小学館）、「いいとしを」（KADOKAWA）

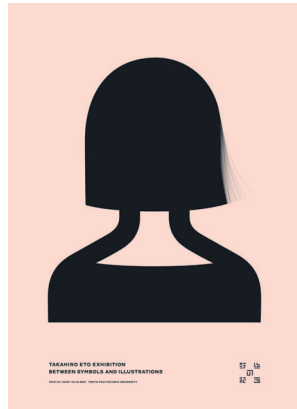
朝日新聞社主催の「第26回手塚治虫文化賞」で、11年メディア芸術卒業・谷口菜津子さんが新生賞を、03年グラフィックデザイン卒業・オカヤイツミさんが短編賞を受賞しました。これはマンガ文化の健全な発展に寄与することを目的に創設されたもので、昨年1年間に国内で発表されたマンガの中から、新生賞は「斬新な表現、画期的なテーマなど清新な才能の作者」に、短編賞は「短編、4コマ、1コマなどを対象に作品・作者」に贈られます。

岸本章教授が 千葉県建築文化賞で優秀賞を受賞

「第28回千葉県建築文化賞」で、環境デザイン・岸本章教授設計の「香取市佐原チャレンジショップ（上仲町第一施設）」が一般建築の部で優秀賞を受賞しました。千葉県と千葉県建築士会の共催による本コンテストは「優れた建築物を表彰することにより、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進すること」を目的に1994年度から実施されています。

博士修了生の畠藤隆弘さんが ラハティ国際ポスタートリエンナーレグランプリ

フィンランドのラハティ・ポスター美術館が主催する世界的なポスターコンペティション「ラハティ国際ポスタートリエンナーレ2022」で、10年大学院博士修了・畠藤隆弘さんの作品がグランプリを受賞しました。これは世界5大ポスターコンペの一つとして知られるもので、日本人のグランプリ受賞は17年振り。「シンボルとイラストレーションの中間」というテーマを明解に表現していると評価され、51カ国から集まった約2,500作品の中から選ばれました。



畠藤隆弘「Between Symbols and Illustrations, Summer morning」

卒業生の松本壮史さんが 日本映画プロフェッショナル大賞で新人監督賞

11年情報芸術（現メディア芸術）卒業・松本壮史さんが「サマーフィルム」のってで「第31回日本映画プロフェッショナル大賞」新人監督賞を受賞しました。本作は「第13回TAMA映画賞」最優秀新進監督賞、「スペイン・アジアンサマー映画祭」批評家賞、「メルボルン映画祭 MIFF SCHOOLS」審査員賞も受賞。タイ、韓国でも劇場公開されています。

ADFミラノサローネ デザインアワード2022で 卒業生が最優秀賞を受賞

「ADFミラノサローネ デザインアワード2022」にて、20年プロダクトデザイン卒業の小川莉咲さん、川島与実さんによる「The beauty of wasting」が最優秀賞を受賞しました。これはNPO青山デザインフォーラム（ADF）が「ミラノサローネ国際家具見本市」の会期中、オフサイトであるフォーリサローネに出展するデザインを公募したものです。

卒業生の林響太郎さんがMTVの3部門で受賞

13年情報デザイン卒業、同非常勤講師の林響太郎さんが「MTV Video Music Awards Japan 2021」で「最優秀邦楽ソロアーティストビデオ賞」「最優秀ロックビデオ賞」「最優秀撮影賞」を受賞しました。これは全米最大規模の音楽授与式の日本版として開催されるミュージックビデオの祭典で、今回は18部門の最優秀作品と8部門の特別賞が発表されました。

テキスタイルデザイン2年の堀木歩美さんが 靴のアワードでグランプリ

皮革産業が盛んな台東区の「第47回靴のめぐみ祭り」日本シューズベストドレッサー賞・クラフトマン部門で、テキスタイルデザイン2年・堀木歩美さんがグランプリを受賞しました。これは若手デザイナーが靴のデザインを競う特別企画で、堀木さんは水たまりを踏んだ時の波紋をイメージし、靴底を波形にデザイン。そのこだわりの形はグラインダーなどで細かく削り出して制作したとのこと。



堀木歩美「水たまり」

老人ホームの生活空間を彩る作品募集で 油画修了生の渡部末乃さんがグランプリ

「第19回アートギャラリーホーム作品募集」で16年大学院油画修了・渡部末乃さんがグランプリを、日本画・田澤苑実副手が社長賞を、大学院版画2年・大久保春霞さんが協賛企業賞を受賞したほか、多数の卒業生が入選しました。これは株式会社チャーム・ケア・コーポレーションが行うコンクールで、入選作品は同社が運営する介護付有料老人ホームに展示、コレクションされます。

岡本太郎現代芸術賞展で 日本画卒業生のプロジェクトが特別賞

14年日本画卒業・千葉大二郎さんが主宰するアート・プロジェクト「硬軟」が、「硬軟+stenographers」として「第25回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」で特別賞を受賞、11年情報芸術（現メディア芸術）卒業・高田茉依さんが入選しました。今回は578点の応募があり、24名（組）が入選。展覧会は2月19日～5月15日、川崎市岡本太郎美術館で行われました。



硬軟+stenographers
「速記美術のエレメント」
画像提供：川崎市岡本太郎美術館

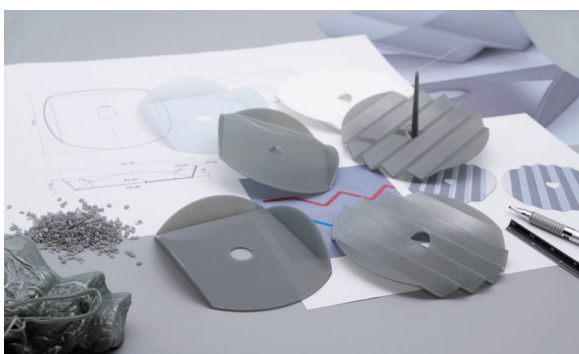
2021 One Asia Creative Awardsで 卒業生の石川結貴さんがゴールドを受賞

世界の三大広告賞の一つ「ONE SHOW」のアジア太平洋地域限定のアワード「2021 One Asia Creative Awards」で、18年メディア芸術卒業・石川結貴さんがディレクションをした作品「Hair album」が、フィルム&ビデオクラフト部門（アニメーション）でゴールドを、ブランドドエンターテインメント部門でメリットを受賞しました。

TOPICS

TUB「すてるデザイン」発 再生プラスチックを使い初の製品化

「すてるデザイン」は、株式会社モノファクトリーをハブとして複数の企業と取り組む循環型社会に向けたTUBの共創プロジェクトです。プロジェクトに参画するブックオフコーポレーション株式会社が、グループ会社全体から排出される年間約1,500トンの中古CD・DVD・ゲームソフトを再資源化。プロダクトデザイン専攻の学生との共同研究を通して、この再生プラスチック素材を50%使用した2種類のデスクトレイを製作しました。デスクトレイは4月、ブックオフ社が西武池袋本店内に outlets した期間限定ポップアップストアにて、先着1,000名に無料配布されました。



TUBの共創プロジェクトから生まれた2種類のデスクトレイ

共通教育は、 リベラルアーツセンターに変わりました

リベラルアーツセンター長 諸川春樹

かつての「学科」はその後「共通教育」となり、それが今年から「リベラルアーツセンター」に変わりました。「学科」「共通教育」という中立なイメージから「攻めの姿勢」が感じ取れる名前になったのでは、どうれしく思っています。「でも、名前が変わっただけでしょう」と言われるとちょっと悔しい。たしかに皆さんは共通教育で4年間の履修計画を立てられているので内実はほぼ従来どおりです。では何が変わったのか。

本学にはこれまで学科目と実技は、車の両輪となって教育を支えるという前提がありました。でもその車輪はうまく回転しているようには見えませんでした。そこに最近、「大学におけるリベラルアーツとは」という議論が押し寄せてきて、本学でも全学的に教養教育を見直そうという動きが生まれたというわけです。

具体的には学生の皆さんや実技の先生方が望んでいる教養科目をよりいっそう積極的に提供するという方向です。そのためリベラルアーツセンター運営会議が設けられ、すでに学科と実技の先生方との会合が発進しています。皆さんも「こんな科目があったらいいな」とか「もっと知りたい分野」など、ちょっとしたアイデアや御要望がありましたら、是非「リベラルアーツセンター」までお知らせください。お待ちしております。

ウクライナ侵攻を受けた学生への 特別受入プログラムを開始

戦禍を被ったウクライナにおいて、厳しい状況下にあっても芸術を志す学生たちを支援するため、研究・制作環境を提供するプログラムを開始しました。渡日、住居をはじめとした各種支援を行い、研究生として本学に受け入れることで、担当指導教員のもと研究テーマに沿った研究、授業の履修、施設使用ができるというものです。4月には大学公式Webサイトでウクライナ情勢に関する建皇哲学長の声明文も公開し、2名の受け入れが予定されています。



<https://www.tamabi.ac.jp/topics/ukraine/contribution.htm>
現在、プログラム提供のための寄付を募っています。



多摩テレビの大型モニターで 「タマグラアニメーション」を放映中

多摩センターにあるケーブルテレビ局「多摩テレビ」で、現在、グラフィックデザイン学科の学生が制作したアニメーションが「タマグラアニメーション・シアター@多摩テレビ」として放映されています。大型モニターを活用して地域の情報を発信するという多摩テレビの取り組みの一環として、今回はじめて実現したものです。同学科の野村辰寿教授がセレクトしたオリジナルの個性豊かな12作品が、祝日・日曜を除く12:00~13:00の間、9月17日まで放映されます。大学公式Webサイト「タマグラアニメーション・シアター」でも公開中です。



多摩テレビ内の大型モニターに映し出されたタマグラアニメーション

NHKスペシャル「東京ブラックホール」の映像技術を解説

4月23日、上野毛キャンパスでNHKスペシャル「東京ブラックホール」の制作陣による特別講義「映像美術表現と最先端映像技術」が行われました。俳優の山田孝之さんが過去にタイムスリップし歴史映像に入り込む表現で構成された番組で、そのビジュアル化の過程や画期的なCG/VFXの手法について解説されました。講義は同番組のトークイベント&ファンミーティングin多摩美術大学と銘打たれ、出演した伊原六花さんが登壇したほか、主演の山田さんからのビデオメッセージも上映されました。演劇舞踊デザイン学科を中心に全学科全学年の学生273名が受講。参加した学生は「ものづくりに対する厳しい言葉もあったが、これからのモチベーションになった」と話しました。



NHKスペシャル「東京ブラックホール」特別講義の様子

演劇と美術の新しい形を考える 日本演劇学会全国大会を上野毛で開催

5月29日～6月5日、日本演劇学会全国大会が上野毛キャンパスで開催されました。日本演劇学会は演劇研究の学術団体で、今回は「演劇と美術」をテーマに、演劇舞踊デザイン学科の主催で行われました。本学共同研究の成果として、収集した資料等の研究展示「近代日本の演劇と吉田謙吉」および前夜祭シンポジウムで発表。さらに野田秀樹教授、舞台美術家の堀尾幸男さん、コスチューム・アーティストのひびのこづえさんらを迎えた「NODA・MAPにおける美術のポジション——野田秀樹の作品を例として」、演劇作家の岡田利規さん、彫刻学科の高嶺格教授らを迎え、演劇と美術のボーダレスな関係について語る「演劇と美術—入り交じる時間と空間」という二つのシンポジウムが行われました。



シンポジウムⅡ「演劇と美術—入り交じる時間と空間」の様子／撮影：白浜若奈

日本画修了生で副手の森田舞さんが 直木賞受賞作の装丁画を手がける

第166回直木賞受賞作『塞王の楯』（今村翔吾著、集英社）の装丁画を、日本画・森田舞副手が手がけました。本作は戦国時代、琵琶湖畔の大津城を舞台に、最強の楯である石垣と至高の矛たる鉄砲の対決をそれぞれの職人の視点から描いた時代小説です。書籍のカバーには森田副手の作品「ground 2021（標風）」が、表紙には本作を読んで描き下ろした作品「陽裏—塞王の楯」がモノクロで採用されています。人間や人間の感情を鳥の姿に仮託する森田副手独特のモチーフが印象的です。「石積み職人が主人公であることから、石や岩を感じさせるような、岩場のような地面から深淵をのぞくような情景、時代が動くエネルギーや烈火などをイメージして仕上げました」（森田副手）



左：『塞王の楯』カバー、右：表紙

上野毛キャンパスに 食堂棟と教室棟を新設

上野毛キャンパス校舎の耐震補強計画に伴い、6月21日、中庭に食堂棟がオープンしました。また、2階建ての教室棟を現在建設中です。食堂棟は本館・図書館寄りに位置し、ガラス張り前面にテラスを設けた1階建ての建物です。東学食堂が継続して営業を行っています。緑に囲まれた明るく開放的な空間で、屋外の飲食スペースと合わせ、学生たちの憩いの場となっています。年内に竣工予定の教室棟はA・B棟側での建設を進めています。「教室・講義室」「売店」「事務室」が入り、本館にあった機能をそれぞれ移転します。耐震補強は全学的な整備計画の一環です。学生の皆さんの授業や学生生活に影響がないよう、引き続き最善を尽くし、安全・安心確保のため、速やかに対処いたします。



上野毛キャンパス中庭に新設された学生食堂

工芸・井上教授の退職記念展を開催 回顧展は茨城で8月28日まで

工芸学科の井上雅之教授の退職記念展が4月4日～23日、東京・京橋のギャラリー東京ユマニテで開催されました。また、現在、茨城県陶芸美術館で約40年におよぶ作家としての足跡をたどる大規模な個展「井上雅之 描くように造る」が開催中です。井上教授は1980年代から陶を素材に立体作品の制作を始め、大型の造形作品を中心に日本現代陶芸の第一線で活躍し、ロクロ成形後に割った破片を作品の一部に用いたり、ボルトで陶のパーツを組み立てるなど、従来の常識にはまらない自由な発想で陶の可能性を大きく



く拡張してきました。2017年には「第24回日本陶芸展」で大賞・桂宮賜杯を受賞しています。本学大学院修了後、1998年から専任教員として教鞭を執ってきた井上教授は2023年3月に退職されます。

「H-221」2021年
267x168x197h.cm
陶、Ceramics
撮影：林雅之

学内の研究資料を横断的に活用するための 実験サイトを公開

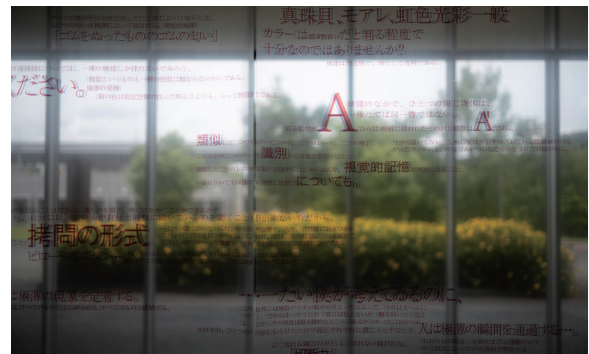
3月31日、学内の研究資料を横断的に活用するための実験サイト「研究ポータル」のベータ版を公開しました。本学の情報シンクタンクとして、知と創造のネットワークを形成するための「メディアネットワーク（MN）構想」実現のために企画、設計、実装されたものです。MNはアートアーカイブセンター、美術館、図書館、メディアセンター、芸術人類学研究所、大学院などが連携し、本学における創作教育活動を研究という側面から支援していくためのプラットフォームです。研究ポータルは、本学が所蔵する作品、資料、書籍、論文などの情報をニュートラルに収集したデータベースで、学内外の誰でも使用可能です。今後もデータの追加やサイトのアップデートを継続的に行っていく予定です。



「研究ポータル」トップページ

情報デザイン・永原教授の退職記念展を アートテークギャラリーで開催

6月10日～25日、八王子キャンパス・アートテークギャラリー1Fで、今年度で退職される情報デザイン・永原康史教授の退職展「よむかたち デジタルとフィジカルをつなぐメディアデザインの実践」が開催されました。「情報を《読む》ためのデザイン」を追究し続けた教授自身の仕事をアーカイブした同名書籍をもとに展開され、活動初期の実験的なデジタル作品やプロジェクト、マルチメディア、アルゴリズムック・タイポグラフィ、展覧会デザイン、エディトリアルデザインなど、さまざまなメディアを横断した膨大な仕事が一堂に会しました。デジタルメディアとデザインの変遷を俯瞰する展示に、学生や卒業生、デザイン関係者など3,000人を超える人が訪れました。



「デュシャンの極薄と足穂の薄板界（アナグリフ）」

多摩市制50周年の記念イベントで 油画学生が黒板アートを制作

4月1日に開館した多摩市立市民活動・交流センターのオープン記念イベントで、油画4年・矢野憩啓さんが描いた黒板アートが披露されました。この施設は閉校した旧北貝取小学校を改修してつくられた、多摩市民の美術や音楽、ダンスなどの活動や交流を支援する場で、イベントは市制施行50周年の記念事業の一環として行われました。矢野さんが会議室のスペースに10日間をかけて制作した黒板アートは桜をモチーフにした作品で、チョークのタッチを生かし、地面に落ちている桜の花や空を見上げた時に見える枝など、自身の体験や想像した桜のシーンを画面上で繋ぎ合わせて描かれています。イベント時に一般公開された後、5月末まで利用者が観覧できるよう残されました。



矢野さんが桜をモチーフに描いた黒板アート

大学院EWSでアピチャップン特任教授の 対面での集中ワークショップが実現

3月、大学院エクスペリメンタル・ワークショップ（EWS）で、国際的に活躍するタイの映画監督でアーティストのアピチャップン・ウィーラセタクン特任教授が来日し、コロナ禍でオンラインでの実施となった昨年度から1年越しに、初めての対面での集中ワークショップが実現しました。また、ドイツを拠点に活動するアーティストの塩田千春特任教授も帰国され、昨年度に続き対面での集中ワークショップを実施。院生とともに自身も「境界線」をテーマに作品を制作し、大学院の教授陣からの講評を受けました。



アピチャップン特任教授と院生らとのディスカッションの様子

橋本の街を彩る「SDGs Color Art Project」に グラフィックデザインの学生、院生が参加

JT（日本たばこ産業株式会社）が「相模原市SDGs推進室」と「さがみはらSDGsパートナー」の2団体とすすめる「橋本の街をキャンパスに！SDGsカラーアートプロジェクト」の一環として、現在、グラフィックデザインの学生および大学院生によるイラストレーション作品が、地下道「やすらぎの道立体」の壁面などJR橋本駅周辺エリアのさまざまな場所で掲示されています。八王子キャンパスに近接する相模原市と本学は2016年に包括連携協定を締結しており、さまざまな分野での協働を行っています。

八王子市の公園に プロダクト学生の陶作品が展示

プロダクトデザイン4年高橋慶一郎さんの陶作品「生き物の器」が、八王子市長池公園内のコミュニティ施設「自然館」で展示されています。この作品は3年次の授業「プロダクトデザインⅡ」（担当教員：濱田芳治教授、尾形達講師）の課題の一環で取り組んだもので、課題リサーチの際に尋ねた長池公園の関係者から自然館で展示をする提案をうけて実現されました。「学外の方と関わることで学校の中だけでは得られない経験ができ、関わりの中で新しいアイデアも生まれ、とても勉強になりました」（高橋さん）



高橋慶一郎「生き物の器」

入学式に卒業生で芥川賞作家の 高山羽根子さんが登壇

4月6日、八王子キャンパスTAUホールで、令和4（2022）年度 多摩美術大学大学院・美術学部の入学式を執り行いました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため学科ごとに分散しての開催でしたが、この春の政府見解に基づく対策の緩和により、午前午後の二部制で、新入生と対面するかたちでの実施ができませんでした。校友会代表祝辞では、「首里の馬」で芥川賞を受賞した01年日本画卒業生で作家の高山羽根子さんが登壇。ご自身の経験を登山に例えながら話され、新入生にエールを送りました。



校友会代表祝辞で登壇した高山羽根子さん

自然災害と芸術表現の連動性に迫る 「UNZEN展」開催レポート

6月3日～18日、芸術人類学研究所主催・榎木野衣教授監修による展覧会「UNZEN —『平成の島原大変』：砂守勝巳と満行豊人をめぐって」が八王子キャンパス・アートテークギャラリー2Fで行われました。雲仙・普賢岳噴火災害をテーマに取り組んだ二人の表現者が残した写真と絵画を中心に構成され、過去の災害を生き抜いた人びとの想像性に触れながら、新たな記憶の継承のありかたを模索した内容が反響を呼び、新聞・テレビなど数多くのメディアで取り上げられました。



「UNZEN展」会場風景

米山教授を偲ぶ会を 上野毛で開催

4月に逝去された統合デザイン・米山貴久教授を偲ぶ会が、6月18日、上野毛キャンパスで行われま

した。学科の主催により企画されたもので、建昌哲学長、深澤直人学科長をはじめ、教員や卒業生らによる弔辞が捧げられました。米山プロジェクトの写真やゆかりの人々からのメッセージも数多く掲示され、米山教授の思い出を語り合いました。※19ページに深澤教授による追悼文も掲載しています。



人事異動

定年退職

2022年3月31日付で6名の方が退職されました。長い間お世話になりました。

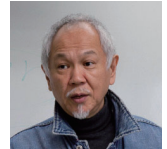
木下勝弘 教授 | グラフィックデザイン学科

自ら企画して取り組んだ多摩美術大学での最後の仕事「田中一光ポスター展」と「タマグラ・ポスター展」の記録集が3月30日に仕上がった。全冊の確認を終えて多摩美を去る時刻、満開の桜並木が見送ってくれた。思えば15年間で優秀な学生達と出会った。その一人から「CMディレクターを辞め、自分のファッションブランドを立ち上げた」と、2年前に連絡があった。私の授業で、本人が取り組んだ服創りで体験したワクワク感が忘れられず、ついに起業したそう。今その服を着てこれを書いている。とてもうれしい。



高橋正 教授 | テキスタイルデザイン専攻

1996年に着任し、気付いたら定年を迎え、時間の早さを感じております。在職期間中に様々な出会いがあり視野が広がったことは、何物にも代え難い体験でした。海外研修での交換教員も、これまでの人生で有意義な一コマといえます。微力でしたが、研究室では同僚やスタッフの支えがあり、乗り切ることが出来ました。長い間、本当にお世話になりました。これまでのご厚意に感謝を込めて、皆様のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げます。



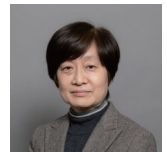
海老塚耕一 教授 | 芸術学科

多摩美での学生を含めた50年間は、「裸の思考」をあからさまに表明できた充実した日々であったということにつきます。「あるがまま」であること、そんな西欧にはない自由が存在し、また、生きていた大学で、そのような環境で育てられたということです。長い間ありがとうございました。今後の発展をお祈りしております。



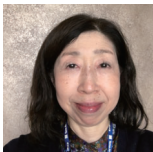
小穴晶子 教授 | 共通教育

在職中は大変お世話になり有難うございました。1993年に着任し、美術学部二部、造形表現学部、美術学部所属し美学とフランス語を担当しました。表現意欲溢れる先生方や学生さんたちとの出会いは貴重な宝になっています。美大として日本で唯一の夜間部であった造形表現学部での出来事は特に懐かしく思い出されます。今年度から共通教育はリベラルアーツセンターとして生まれ変わります。多摩美術大学の一層のご発展をお祈りしています。



清水千明 主任 | 教務部教務課

定年退職いたしました。多摩芸術学園の図書室から始まり、上野毛キャンパス、八王子キャンパスに勤務させていただきました。一番長く過ごした上野毛キャンパスの夜間部では社会人学生や研究室と一緒に学事や毎日の出来事でかけがえのない思い出ができました。春の八重桜と秋の銀杏の葉っぱと今でも夜間部が大好きです。八王子キャンパスではまた違った新しい世界が広がりました。何よりもたくさんのお大切な人達にめぐり逢いしあわせな時間が宝物になりました。心より感謝いたします。これからは事務や研究室の皆さまや学生や卒業生の制作や発表を陰ながら応援していきます。ありがとうございました。



林智明 専門職 | 附属メディアセンター

多摩芸術学園、美術学部2部、上野毛技術センター、メディアセンター、造形表現学部、上野毛メディアスタジオ、上野毛新学科と多摩美の中で関わってきました。時代はアナログからデジタルへの変換期でした。その間出会った教職員の皆さん、多くの学生の皆さん長い間ありがとうございました。



退職

● 美術学部

秋山孝 (グラフィックデザイン教授)
(2022年1月18日付)

高橋禎彦 (工芸教授)

吉橋昭夫 (情報デザイン准教授)

山田菜々子 (テキスタイルデザイン講師)

堀口慎吾 (日本画助手)

寺本明志 (油画助手)

柴田彩乃 (油画助手)

迫鉄平 (版画助手)

空閑渉 (彫刻助手)

西村卓 (彫刻助手)

柳澤清香 (工芸助手)

横山翔平 (工芸助手)

鳥山耀太 (グラフィックデザイン助手)

鷲尾恵一 (グラフィックデザイン助手)

川尻優 (グラフィックデザイン助手)

三浦あかり (プロダクトデザイン助手)

武智夏依 (テキスタイルデザイン助手)

安田萌音 (環境デザイン助手)

江口慶 (環境デザイン助手)

岡本絢子 (情報デザイン助手)

岳明 (メディア芸術助手)

吉田和央 (メディア芸術助手)

島田浩子 (芸術学助手)

石川晶子 (統合デザイン助手)

土田寛也 (統合デザイン助手)

山田詩音 (統合デザイン助手)

小沼あみ (演劇舞踊デザイン助手)

木原美貴恵 (演劇舞踊デザイン助手)

中塚ゆい (演劇舞踊デザイン助手)

中村勇輝 (演劇舞踊デザイン助手)

西端万柚子 (演劇舞踊デザイン助手)

(以上2022年3月31日付)

米山貴久 (統合デザイン教授)

(2022年4月8日付)

● 大学院

陳芴宇 助教 (2022年3月31日付)

● 附属アートアーカイブセンター事務局

田川莉那 総合職 (2022年1月31日付)

● 附属図書館事務局

米山秀樹 総合職 主任 (2022年2月28日付)

● 総合企画部広報課

渡辺十和 常勤嘱託

● 附属メディアセンター

山本恵海 常勤嘱託 (以上2022年3月31日付)

● 附属アートアーカイブセンター事務局

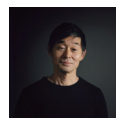
小林宏道 総合職 調査役 (2022年5月8日付)

新規採用

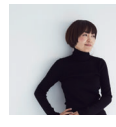
● 美術学部



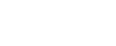
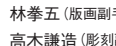
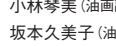
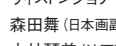
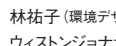
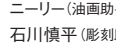
馬越寿 教授
工芸学科



皆川明 教授
テキスタイルデザイン専攻
Photo:大沼ジョージ



柴田文江 教授
統合デザイン学科



二ーリー (油画助手)

石川慎平 (彫刻助手)

林祐子 (環境デザイン助手)

ウィストンジョナサン (統合デザイン助手)

森田舞 (日本画助手)

小林琴美 (油画助手)

坂本久美子 (油画助手)

林拳五 (版画助手)

高木謙造 (彫刻助手)

今井瑠衣子 (工芸助手)

下虎之介 (工芸助手)

臼井達也 (グラフィックデザイン助手)

中村雪野 (グラフィックデザイン助手)

西野萌黄 (グラフィックデザイン助手)

志村優 (プロダクトデザイン助手)

中澤楓 (テキスタイルデザイン助手)

ヨウカイセイ (環境デザイン助手)

伊藤蓮 (メディア芸術助手)

野口七星 (メディア芸術助手)

監物佳南枝 (情報デザイン助手)

山本彩果 (情報デザイン助手)

島貴悟 (芸術学助手)

小林りり子 (統合デザイン助手)

須賀日奈子 (統合デザイン助手)

木下裕絵 (演劇舞踊デザイン助手)

工藤藤 (演劇舞踊デザイン助手)

西尾桃華 (演劇舞踊デザイン助手)

横井菜穂 (演劇舞踊デザイン助手)

吉澤京 (演劇舞踊デザイン助手)

鎌水菜月 (リベラルアーツセンター助手)

● 大学院

井沼香保里 助教

鄭吟采 助教 (以上2022年4月1日付)

● 総務部情報推進課

松本朗 総合職 課長補佐 (2022年1月26日付)

● 附属アートアーカイブセンター事務室

塚田優 常勤嘱託 (2022年3月1日付)

● 広報部

根岸知子 総合職 事務部長

● 教務部教務課

佐藤瑠香 総合職

● キャリアセンター

木村紗知子 総合職

● 教務部研究支援課

石山琢子 常勤嘱託

● 附属メディアセンター

戸張花 常勤嘱託

● 生涯学習センター事務部

渡邊智巳 常勤嘱託

(以上2022年4月1日付)

● 総務部総務課

杉山弘恵 常勤嘱託

(2022年5月2日付)

昇格

進藤幸代 教授 (リベラルアーツセンター)

高梨美穂 教授 (リベラルアーツセンター)

高橋庸平 准教授 (グラフィックデザイン)

任命

学部長

小泉俊己

広報部長

和田達也

国際交流センター長

久保田晃弘

キャリアセンター長

田中秀樹

学長補佐

安次富隆、佐竹邦子

学部長補佐

高梨美穂

学科長/センター長

武田州左 (日本画)

日高理恵子 (油画)

大島成己 (版画)

高嶺格 (彫刻)

尹熙倉 (工芸)

大貫卓也 (グラフィックデザイン)

武正秀治 (プロダクトデザイン)

川井由夏 (テキスタイルデザイン)

松澤穂 (環境デザイン)

原田大三郎 (情報デザイン)

安藤礼二 (芸術学)

深澤直人 (統合デザイン)

金井勇一郎 (演劇舞踊デザイン)

諸川春樹 (リベラルアーツセンター)

附属図書館長

安藤礼二

附属美術館長

鶴岡真弓

附属メディアセンター

石田尚志 (所長)

附属アートアーカイブセンター

光田由里 (所長)

生涯学習センター

木下京子 (センター長)

久保田晃弘 (プロデューサー)

西岡文彦 (プロデューサー)

佐竹邦子 (プロデューサー)

附置芸術人類学研究所

鶴岡真弓 (所長)

佐藤直樹 (所員)

港千尋 (所員)

安藤礼二 (所員)

金沢百枝 (所員)

金子遊 (所員)

榎木野衣 (所員)

(ただし、1年任期とする。)

名誉教授

高橋正、海老塚耕一、小穴晶子

客員教授

● 美術学部

日本画

町田久美

油画

オウジュン、藏屋美香、塩田純一、松浦

寿夫、森山直人

版画

秋山伸、清水穂、鷹野隆大、三宅砂織

彫刻

北澤憲昭、須田悦弘、多和圭三、福永

治

工芸

天野裕夫、安藤泉、関井一夫、武田厚、

八田雅博、藤田政利

グラフィックデザイン

葛西薫、加藤久仁生、カリビッポ、菊竹

雪、佐藤可土和、竹中直人、津山克則、

三浦武彦

プロダクトデザイン

アウグストグリッロ、若佐十良、ヴァーリ

ヘイユディト、小倉ひろみ、廣田尚子、

山中俊治

テキスタイルデザイン

相澤陽介、新垣幸子、安東陽子、池田

祐子、伊藤志信、鈴木マサル、須藤玲

子、関島寿子、ヘレナハイヴァネン、皆

川魔鬼子

環境デザイン

青木淳、伊東豊雄、田根剛、団塚栄喜、

中村好文、廣村正彰、藤江和子

メディア芸術

伊藤俊治、グリフィスキオ、四方幸子

情報デザイン

上田壮一、小林章、西山浩平、暦本純

一

芸術学

小池一子、祖父江慎、本間孝、山梨俊

夫

統合デザイン

佐々木正人

演劇舞踊デザイン

高萩宏、國吉和子、勅使川原三郎

● 大学院

馬越陽子、沓名美和、横尾忠則

(以上2022年4月1日付)

追悼

1993-

講師 (デザイン科)

グラフィックデザイン専攻)

1994-

同助教授

2000-

教授 (グラフィックデザイン学科)

2022.1.18

逝去 69歳

秋山孝
教授

「君は何もわかってないね」という言葉を秋山先生から何度聞いたことでしょうか。学生時代は何も言い返せず、言われる度にショックを受けていました。しかし、この言葉こそが秋山先生の深い探究心の表れだったと改めて感じています。

ある日の授業で「若者の腰履きファッションが理解できない」と全否定されていました。しかし、次の授業では「腰履きには歴史があるんだ」と考え方が180度転換していたのです。後に伺った所では、その時は歴史的なルーツやヒップホップ・カルチャーについて学ばれたとのことでしたが、この手のエピソードに事欠かない先生の柔軟な発想と知的探究心には驚かされ続けました。

秋山先生はイラストレーターやグラフィックデザイナーとして国内外の第一線で活躍されただけでなく、常勤・非常勤を合わせて30年以上という長い間、本学で教鞭をとられてきました。そうした研究や教育の場でも先生の探究心は留まる所を知らず、ついには故郷の新潟県長岡市に自ら「秋山孝ポスター美術館長岡」を開館されたほどです。何事にも全力投球されてきた秋山先生。常に先頭に立って僕たちに指針を示してくださった事に感謝すると共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

グラフィックデザイン学科准教授 高橋庸平

2014-

教授

(統合デザイン学科)

2022.4.8

逝去 58歳

米山貴久
教授

米山先生、あなたは本当に正義感の強い人だった。多摩美での学生時代もラグビー部でいつもそのように突進していたのです。いつも研究室で黙々と集中して学科の運営の全てを一手に引き受けて引っ張っていた。入試のデッサンの採点の時、一枚のデッサンに食い入るように見入って、その技量を見極めるようにしていた。人が面倒くさがることを率先してやり、正しいことを堂々と語っていた。学生には優しく、ある時はとても厳しかった。統合デザイン学科を創るということは並の力では出来ないと思いますが、あなたがいたからこのような大きな学科を一気に立ち上げることが出来ました。

大学の仕事に集中するために東芝を早期退社し、教員として人生を全うした。卒業式の日に卒業生に向かって「苦しいことがあったら空を見よ」と自らの大変さを抱えながらも学生の将来を励ましていた。

「多摩美が好きで好きでしようがないんです」と奥様は言っていました。あなたの生きる姿勢を見習って私たち全ての多摩美の人たちはがんばらなければいけないと思います。いつも勇気をくれてありがとうございます。多摩美をずっと見守っていて下さい。

統合デザイン学科教授 深澤直人

秋山孝先生を偲ぶ

米山貴久先生を偲ぶ

多摩美術大学美術館



多摩市落合1-33-1 | 10:00~17:00 (最終入館16:30まで) | 火曜休館 | 一般=300円/20名以上の団体=200円 (障がい者および付添者、学生以下は無料、卒業生も校友会カードの提示により無料)

4/2(土) - 9/4(日)

多摩美術大学美術館コレクション展

みつめる×かんがえる そうぞうのマテリアル



多摩美術大学美術館コレクションから、4つのマテリアル「水・木・金・土」にまつわる作品を展示。紀元前の遺物から近現代の作家まで、幅広い時代・世界各国の地域にわたるコレクションを通して、人の営みや精神との密接な関係から生まれた素材の持つ多様なイメージを探る。

関連イベント

鶴岡真弓館長の眼 アートの現在と未来へ



心理占星術研究家・鏡リュウジ氏×多摩美術大学美術館 館長・鶴岡真弓 ※多摩美術大学美術館Youtubeチャンネルにて、計5本の動画を配信 중이다。

アキバタマビ21



タマビが運営する新しい創造の場 3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手掛ける企画展を、年間約8回開催しています。

千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 201・202 | 12:00~19:00 (金・土は20:00まで) | 火曜休館 | 入場無料

7/10(日) - 8/14(日)

第98回展「長文風速計」

出品作家の一人である九里藍人がかつて考えた造語をヒントに、それぞれの解釈で絵画表現を行う展覧会。

出品作家=九里藍人、石井佑果、伊藤夏実、関口美咲



8/20(土) - 9/19(月・祝)

第99回展「たゆたまりに小石をひとつ」

みせるつもりなく作りためた断片や無意識的に生まれたものなどから、制作過程と作品の境界を探り、自身の制作行為を省みる。

出品作家=榎本浩子、小林大悟、竹本侑樹、田中美沙妃

アートテーク



八王子キャンパス内 | ギャラリー開場時間10:00~16:00 (展覧会による) | 日曜・授業日以外の祝日休館 | 入場無料

以下は、ギャラリーで開催予定の展覧会です。日程および展覧会名は予定の情報です。最新情報はHPでご確認ください。

9/5(月) - 21(水)

多摩美術大学助手展'22(仮)

10月上旬 - 中旬

家村ゼミ展2022

10/25(火) - 27(木)

Pacific Rim 15 Japan Stage "Ceramic Futures"

中間発表

多摩美術大学 TUB



“まじわる・うみだす・ひらく”をコンセプトに、オープンイノベーションによる価値の創出、幅広い層に向けたデザインやアートプログラムの提供、学生作品の展示・発信を通してデザインとアートの持つ創造性と美意識を社会とつなぐ場を提供しています。

港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F (東京ミッドタウン・デザインハブ内) | 11:00~18:00 | 日曜・祝日休館 | 入場無料

7/21(木) - 8/8(月) ※日曜休館、祝日は開館予定

第17回企画展「医療と美術II」



昭和大学×多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻による企画展。医療現場との対話からテキスタイルが空間や人々の心にどのように寄り添うことができるかを考え、テキスタイルデザインの可能性を追求した作品展示。

EXHIBITION & THEATER

3/2(水) - 8/21(日)

高島屋史料館TOKYO 4階展示室

まれびとと祝祭

一祈りの神秘、芸術のカー
芸術学・安藤礼二 教授 (監修)

7/8(金) - 12/30(金)

TBS赤坂ACTシアター

TBS開局70周年記念

舞台「ハリ・ポッターと呪いの子」
演劇舞踊・金井勇一郎 教授
(大道具製作)

7/12(火) - 8/20(土)

クリエイションギャラリーG8

第24回亀倉雄策賞 受賞記念展
グラフィックデザイン・大貫卓也 教授

7/16(土) - 10/2(日)

青森県立美術館

ミナ ベルホネン/皆川明 つづく
テキスタイルデザイン・皆川明 教授

7/20(水) - 8/1(月)

高島屋新宿店10階 美術画廊

salaMandala / Válka s mlouky
井上裕起展
油画・井上裕起 非常勤講師

8/10(水) - 11/7(月)

国立新美術館

国立新美術館開館15周年記念
李再煥
李再煥 名誉教授

8/18(木) - 28(日)

本多劇場

加藤健一事務所公演
「スカラムーシュ・ジョーンズ or
七つの白い仮面」
演劇舞踊・加納豊美 教授
(衣裳デザイン)

BOOK



写真論—距離・他者—歴史
港千尋 著 (メディア芸術教授)
中央公論新社
1月7日刊
2,090円 (税込)



武満徹、世界の札幌
港千尋 著 (メディア芸術教授)、他
永原康史 装幀 (情報デザイン教授)
インスク립ト
3月25日刊
2,200円 (税込)



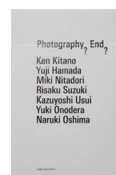
折れない心を育てる
仏教語 悩みが気づきに変わる80のヒント
折野俊明 著
(環境デザイン教授)
河出文庫 | 4月6日刊
715円 (税込)



マクロネシア紀行
—「縄文」世界をめぐる旅
金子遊 著
(芸術学准教授)
アーツアンドクラフツ | 4月20日刊
1,980円 (税込)



よむかたち デジタルとフィジカルをつなぐメディアデザインの実践
永原康史 著
(情報デザイン教授)
誠文堂新光社
6月21日刊
4,180円 (税込)



Photography? End? 7つのヴィジョンと7つの写真的経験
大島成巳 写真アーティスト (版画教授)、他
magic hour edition
6月10日刊
3,300円 (税込)

「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。

メール (news@tamabi.ac.jp) あるいは右のQRコード「Activity News 情報投稿フォーム」からお知らせ下さい。



Tama Art University

多摩美術大学 広報誌「TAMABI NEWS」2022年7月28日発行 第31巻 第1号 通巻90号
発行：多摩美術大学 広報部広報課 東京都八王子市鎌水2-1723 電話：042-676-8611 (代表)

